

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年1月18日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.82】

沖縄別荘の売却以降の疑惑検証を本格的に開始！

前号で紹介した松崎氏の秘書役であり、別荘購入の手続きを行っていたというTM氏について、西岡研介著「マングローブ」には以下の記載がある(p.97~)。

「松崎さんと知り合ったのは、彼がうちの店に食事に来てくれたのがきっかけでした。松崎さんはいつも奥さんと、比嘉賢さん(仮名)という男性を連れていました。比嘉さんは、松崎さんの運転手兼秘書のような存在で、松崎さんの会社の社員だと聞いていました。比嘉さんが沖縄の出身だったことから、地元の事情には詳しくたですね。あの別荘のガス代、電気代なども比嘉さんの名義になっていました」-(中略)- ちなみにこの比嘉氏は大学卒業後、JR東労組に就職したいわゆる「プロパー書記」で、現在もJR東労組の幹部を務めているのだが、なかなか興味深い過去を持っている。「比嘉は日大の学生だった70年、革マル派の東京教育大(現・筑波大)の学生がリンチで殺された報復のため、革マル派学生が中核派学生を襲った『法政大報復リンチ事件』で逮捕されたことがある。そしてJR東労組内部では現在も『松崎のボディガード』として知られている人物だ。もちろん『マングローブ』のメンバーでもある」(公安当局関係者)

松崎氏は「週刊現代裁判」での尋問で、「沖縄の業者に払うのは、沖縄出身のTMさんという私の秘書兼ドライバーの方がいますので」などと自ら証言しているが、TM氏と上記文中にある仮名の比嘉氏とは同一人物であることは間違いないだろう。

鉄道福祉事業協会は松崎氏らの資産私物化の温床か？！

さて、松崎氏の業務上横領被疑事件の本題に戻りたい。「No.77」で紹介した「6・24判決」の11行目に「M(松崎氏の妻)は、2000年1月15日、日本鉄道福祉事業協会との間で、本件土地を代金687万8,100円で売った」と、最後の行には「さつき商事は、2000年1月15日、日本鉄道福祉事業協会に対し、本件建物を売った」とある。この売却代金を原資に、今度は、松崎氏が息子A氏夫婦の住居として使用されていたハワイの私的なマンションを購入したという事実関係について、業務上横領の疑惑が持たれたということである。沖縄別荘の売却以降の横領疑惑の事実関係について、今後、本格的に検証を進めることとする。

なお、「日本鉄道福祉事業協会」について、西岡研介著「マングローブ」には、「81年に旧動労からの土地や建物などの寄付により設立された『動力車福祉事業協会』が『鉄福』のルーツ。87年、国鉄分割民営化による動労解散に伴い、現在の日本鉄道福祉事業協会と改称された。現在はJR総連関連の福利厚生団体として、前出の目黒さつき会館などの運営を主な業務としている財団法人である」と解説したのに続き、「しかし、それはあくまで『鉄福』の“表の顔”。鉄福の理事長は長年、『松崎の金庫番』といわれたSという人物が務めてきたのです。このため松崎が実質的に所有してきた別荘のほとんどが、鉄福名義になっているのです」との東労組元企画局長・A氏の話を紹介している(p.104)。この福祉事業協会が所有する沖縄や群馬県嬬恋村の保養施設は、松崎氏の証言にも出てくるように、限られたメンバーにしか利用されていなかったのであるが、2003年の「目黒さつき会館」の家宅捜索をきっかけに(No.76参照)慌てふためいて、広く組合員が利用できるかのように後から取り繕っている。この狼狽ぶりについては、後ほど詳しく検証したい。